広島県予算の学習会報告

広島県会議会が始まり２日目１６日、清潔であたたかい民主県政を作る会主催の２月定例会議案等の説明会がありました。

**辻県議　今年度予算の概要報告**

湯崎知事は、今回は、2期目の折り返し時点で来年選挙があります。昨年１０月に改定したチャレンジビジョンに基づき，「仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県～仕事も暮らしも。欲張りなライフスタイルの実現～」に１歩踏み出す予算と位置づけており、今まで行ってきた、イノベーション施策を加速を挙げて実現する予算になっている。

**2016年度予算の特徴**

　今回の予算編成について、今まで行われていたシーリング方式を改め、新規予算を活かすために、全体を見なおし、休廃止する事業をあげる、サンセット方式をとっていることに、注意をし、「選択と集中」で編成された結果が、本当に必要ない事業なのかの精査を皆さんにお願いしたい。

中国新聞に、県の予算1兆50億円を一般家計にみなして五百万円の年収家庭になぞらえて、作られた記事が出ており、身近に感じてもらいたいのですが、ローン残高1162万円と年収の1.5倍もあること、ローン返済（公債費）には80万円を回すような状態であることが紹介されており、県の厳しい財政であることが解ります。

　予算概要については、県のホームページに出ている資料１.２に基づきその概要を報告します。

**全体の特徴**

　全体を見て感じたことはアベノミクスのロ－カル版として出来ておりますが、今まで湯崎知事が唱えていた事業で、終わっていいもの、表に出ていないもの、Ⅱ期目までで何が良くなったのか（マツダの景気が良ければいいのか）、計画をマスコミ向けに打ち上げてきたが、一向にその成果が見えないもの、１００億円の投資ファンドはどうなったのか、など聞かなければ分からないことばかりです。

　これからのことについて、皆さんの検証をお願いします。

湯崎知事の予算に対する基本的な考えを5点あげて説明していますが、どれも、仕事社会、企業社会をどう運営していくかに力点があり、財源については、限られた財源で組んだと言っています。湯崎知事は「欲張り予算」と言って、仕事も暮らしもと言っていますが、本当にできるのでしょうか。

今年の県予算は1兆139億円となって10年ぶりですが、県の借金である県債は過去最高額の2兆3363億円(県民284，4822人で、８２万１２４６円・人)、財政調整基金は平成21年に底をつき以降積み上げてきたところですが、今回取り崩すことになっています。この傾向は他都市も同じで、政府の誘導によるものです。

**項目ごとの特徴点**

県が今力を入れる3つの柱立ては、昨年の災害復興の取り組み、新たな経済成長に向けてより加速させる地方創生の実施、そして広島の使命です。

・災害に強いまちづくりでは、被災地の生活再建と早期災害復旧・復興に強めており、ハード・ソフトで防災・減災対策・自助共助を中心とした県民総ぐるみ運動の展開をしています。

・成長戦略である地方創生関係では、イノベーションを中心とする、企業立地、成長産業としての医療機器関連、環境浄化産業の企業支援があります。

・観光面ではクルーズ船の就航を誘致し、43回を目標にあげています。

・農林水産業関係でＴＰＰ対策として挙げているのが、かんきつの産地競争力強化と和牛の生産のみですが、これだけで大丈夫なのか疑問です。

・人づくりで、少子化対策という中身は、婚活・結婚プロモーションなどを挙げ、4000人が登録していると、昨年の成果を上げているが、これが地方自治体が行う仕事か疑問です。

・子育てについて、保育事業に力を入れていますが、新制度が動き出している関係で、県予算を付けざるを得ない部分もあります。

・働き方改革という分野を作り、女性の働きをはじめとして、企業に対して支援することを一番に考えた施策であり、直接働く個人にかかわる施策、非正規職員をなくすなどのとり組みはどのようになっているのでしょうか。

・また全国的課題である、東京一極集中を打破する為に、ＵＩＪターン増加に取り組んで展開すると言っています。

・教育分野については、「コンビテンシー」や、「学びの変革」など、また新しい横文字を使っていますが、グローバル化に対応した内容に特化しており、本来の教育の在り方に逆行しています。

・福祉医療関係では医療従事者の確保、健康づくりを掲げています。

・地域づくりでは、中山間地域の振興と言いながら、人材づくり、地域ブランドの開発、瀬戸内観光資源の活用が主に目につきました。

・最後の３つ目の柱に広島の使命として、軍縮の評価点をつける活動を引き続き行うようです。

湯崎県政の新自由主義が顕著に出た予算だと言えます。

**説明会参加者からの意見として**

・サンセット方式は、廃止が一旦決められると復活が難しくなるので、それぞれの分野でやめて良いのか検討することです。助産師育成もやめて良いのか。衣替えしたものか、などが検討事項です。

・しまのわ事業など終わっていますが、何をやったのか総括できていないのが問題です。打ち上げだけだったのか。全体で何をしたのか県の姿が見えない。

・県の統計業務の空洞化が進み、県内の寝たきり老人の総数とか、県内の医療過疎地の変化など、それぞれの地域を把握していたことがされなくなっている。基礎数値がないなど大変な事態です。

・この間の県政が、イノベーションに向いて、県民生活に向いていないのは、アベノミクスが暮らしに結びついていないのと同じです。アベノミクスの失敗で、湯崎知事も県民向けに胸を張っていえない状態です。

・今回の災害対応について大きな県民の批判を受けて、最初のあげざるを得ない状態であり、彼の活動範疇を狭めています。地方創生については国の言いなりの計画作りをして、その予算をつけざるを得ない事態です。

・この５年間の費目別割合で、商工費が増えていますが、農林水産予算の減少など、県政の性質が大きく変わっていることが分かります。湯崎県政の通信簿が必要です。

・地方創生計画など、国の言いなりの計画作りが全国一律マニュアルまでしめされて行われ、地方自治体の独自性が奪われています。地方自治の危機といえます。

・経済センサスが新たに取りまとめられています。広島では200件の事業が起こっていますが、庄原・三次では減っています。中小企業者にとっては、県政に反映された施策が見当たりません。先の県商工課長との懇談で、グローバル化対策以外に広島県の経済の方向はどんなものがあるのかと質問しても、よう答えられませんでした。

・地方創生で住民を中心地に集める、コンパクトシティ計画が行われるようですが、公共施設のハコモノ白書作成がほぼ完了し、これから統廃合計画へと進む段階に入っています。

・広島県の製造業はがんばっている統計数値が出ており、全国と違って正規職員の数が非正規職員の数を超えています。事業所の減少が、廃業と言う形態で起こり年間８００件数になっています。外国人従業員数が全国で３位の数です。研修制度と隠れたブラック企業が多いということか。

・地域医療分野では、今「広島県地域医療構想」のパブリックコメントの意見をまとめる作業をしていますが、基礎データーが、2013年の医療施設調査であり、入院で来た人を基礎にしており、入院できない人などがカウントされていません。必要病床数と言うより、今ある数値の配分の変更に過ぎません。また国から、在宅医療に傾斜した方針が出ており、数値的は配分が決まっています。在宅医療を受け入れる体制がない中、強引に病院退去させられる患者さんの多いいことが問題です。しかし、現実の患者数値を探し出す姿勢が県にないのが問題です。ただ単なるベット数減らしに過ぎない、現在ある３万２６４８床の18％を減にする計画で、備北圏域では現在の２/３にするなど、病院から患者の追い出しが進みます。

・教育分野については、広島県は、教育を企業への人材開発ととらえており、人を育てるという観点がありません。話にならないのです。予算書は何が書いてないかと言う見方からは、子どもの貧困をはじめ数々の貧困には目を向けていません。全国では３０人学級がどんどん進んでいますが、広島県教育大綱等を作っていますが、３０人学級や奨学金の問題など、特別に目も向けないようです。

・子ども医療費助成の向上運動をしている団体からは、県内の子ども医療費助成範囲の拡大に５市町が今年上がってきました。しかし、広島県は、福祉委員会でもこの問題について質問しても、前向きの回答は出ていません。街頭署名活動では若い多くの賛同者があり、子どもの医療費が広島県ではタダでないのかと驚く人がいたりで、これから一層強めていきたいと思います。三次市では、子ども医療費助成が高校生まで拡大されていくことになったようです。

・生健会からは、今生活困窮の問題で住宅問題が大きくなっています。県営住宅

予算の１割削減があり、災害被災者・高齢者の方々には、公営住宅問題が建て

替えを含め今後の問題です。

・今年度予算だけでなく過去の予算との比較を行っていく必要があります。

・湯崎知事は、企業人から県知事になった人で、自動車産業に偏っており、イノベーション・グローバル化などの新自由主義をことさら進めている感じです。県民のことが視野にないと言うことです。

・県の財政運営計画の中で、職員数の削減が書かれています。行政職員・教員な

どますます厳しい状態に落ち込んでいくことが目に見えています。時間外の縮減となっていますが、職員の健康を心配するより、財政問題として挙げられて、職員の現状を見ていません。

**会からのお願い**

・辻県議が４００項目の予算要望書を出していますので参考にしてください。各

団体において、表面に出ている予算項目だけでなく隠れている問題点、必要な予算、過去の無駄な予算等への批判も取り組んで、報告してください。

以上広島自治研事務局の責任で取りまとめました。